

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第2学年	国語	96人	社会	98人	数学	98人
	理科	99人	英語	98人		

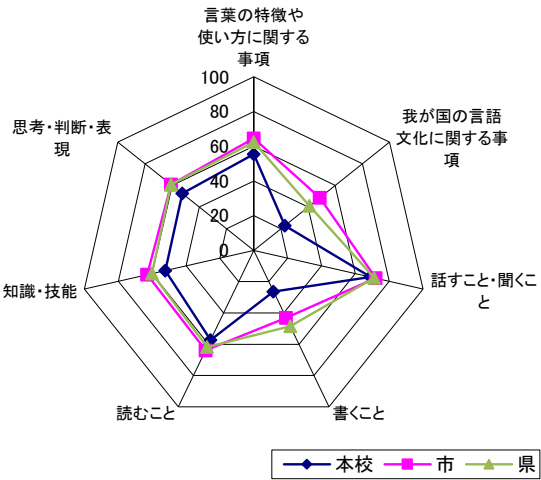
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、
「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.4	64.5	62.3
	我が国の言語文化に関する事項	22.9	48.7	41.1
	話すこと・聞くこと	69.0	72.1	71.2
	書くこと	26.3	43.1	48.5
	読むこと	57.3	63.9	61.8
観点	知識・技能	52.2	62.9	60.1
	思考・判断・表現	52.5	60.8	60.8



★指導の工夫と改善

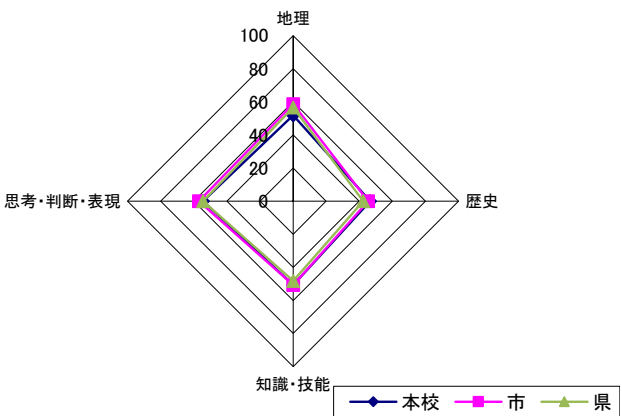
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字の読みの問題は、正答率が高い傾向にある。中には正答率100%のものもある。 ●漢字の読みの問題でも正答率が市の平均より17.4ポイント下回っているものがある。書きの問題の正答率は、全て市、県を下回っている。 ●平均正答率は、市よりも9.1ポイント、県より6.9ポイント下回っている。敬語や文節、表現技法についての理解が不足している。	・今年度から取り入れた漢字学習ノートを活用し、定期的に課題を出し、漢字小テストを行い、読み書きの力を養っていく。 ・敬語や文法については、ワークやAIDリルの問題を解いていくことにより、理解を深める取組を行う。 ・表現技法に関しては、教科書の単元の扉ごとにある短歌に触れる際、単元で学習した短歌の表現技法を振り返るなどし、理解を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して書く問題において、無回答率は9ポイントであり、高い割合ではなかった。 ●市の正答率を25.8ポイント、県の正答率を16.2ポイント下回っており、歴史的仮名遣いについての知識、理解が浅い。	・古典の授業を行う際、音読を重視していく。耳から古文のリズムを吸収し、古語の読みを体得していくようにする。それとともに歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す法則も学ばせていく。さらに暗唱の活動を取り入れ、古典に親しんでいく授業の工夫に努める。
話すこと・聞くこと	○必要に応じて記録しながら話の内容を捉えることができるかを問う問題の正答率は89.6%で、市や県とほぼ同じである。 ●条件に従って話し合いのまとめを書く問題の正答率は、17.7%で、市より4.3ポイント、県より3.3ポイント下回っている。	・グループでの話し合い活動で、メモを取りながら要点を抑え、自分の考えを伝えるトレーニングを積んでいく。 ・振り返りの中に自分たちの話し合いの内容の振り返りを言葉で書き、話す・聞くの力を培っていく指導を行っていく。
書くこと	○指定された長さで文章を書くことができる。 ●読み取った内容を明確にして書くことができるかどうかをみる問題の正答率は、市よりも17.1ポイント、県よりも22.8ポイント下回っている。 ●自分の考えを根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる問題の正答率は市よりも9ポイント、県よりも13.7ポイント下回っている。	・文章の要旨を捉え、それをまとめて書く表現の練習を積んでいく。 ・自己の意見を主張する根拠はどこにあるのかを明確にして書く練習を重ねていく。また、ペアやグループで意見交換し、様々な考え方や表現の仕方に気づくことができる活動を増やしていく。
読むこと	○文章の内容について叙述を基に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は83.3%と高く、県の正答率と同じである。 ●場面の展開や登場人物の心情の変化について描写を基に捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は、市よりも7.8ポイント、県よりも5.6ポイント下回っている。	・文学的文章の単元と併せ、描写についての理解を深める指導を行い、人物描写、心理描写、情景描写を根拠に登場人物の心情を読み取ることができる授業展開を図る。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	51.9	58.7	56.6
	歴史	46.6	45.4	42.4
観点	知識・技能	50.7	50.7	48.2
	思考・判断・表現	54.4	56.9	54.4



★指導の工夫と改善

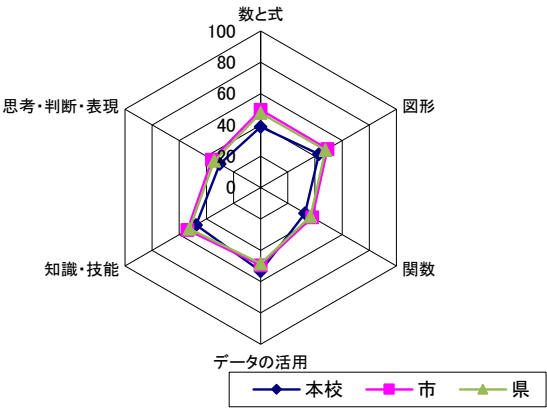
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	○世界の大陸海洋や様々な図法の地図、時差など1年生前半の内容についての問題の正答率は、市・県の正答率を上回っている。 ○温帯・乾燥帯の気候の特色についての問題の正答率は、市・県の正答率を上回っている。 ○全体的に選択式の問題の正答率は、市・県の正答率を上回っているものが多い。 ●複数の資料から読み取った内容を関連付けて答える問題の正答率は、市・県の正答率を下回っているものが多い。 ●資料をもとに考察し記述する問題の正答率は、市・県の正答率を下回っているものが多い。	・1年生前半の内容については、基本的な知識技能は定着しているので、様々な資料を組み合わせる内容を読み取ったり、記述したりする活動を授業で取り扱っていく。 ・雨温図や統計資料の読み取りは、苦手な生徒が多いため、資料読み取りのポイントや問題演習等を授業で多く取り入れていく。 ・地理的事象を読み取り、自分の考えを記述する活動やその内容を他の人に伝える活動を授業で多く取り入れていく。 ・誤答した問題の分析により、問題文の意味を理解できていないことがわかる。授業では、語句の意味を確認したり社会的事象についての文章をしっかりと読み込んだりする時間を確保していく。
歴史	○歴史の全体的な正答率は、市・県の正答率を上回っている。 ○古代から中世までの問題の正答率は、ほとんどの問題で市・県の正答率を上回っている。 ○記述式、短答式の問題の正答率は、すべて市・県の正答率を上回っている。 ●複数の資料から読み取った内容を関連付けて答える問題の正答率は、市・県の正答率を下回っているものが多い。 ●時代の流れを読み取るカードの並べ替えの問題の正答率は、市・県の正答率を下回っている。	・1年生の内容については、基本的な知識技能は定着しているので、様々な資料を組み合わせる内容を読み取ったり、記述したりする活動を授業で取り扱っていく。 ・歴史的事象を読み取り、自分の考えを記述する活動やその内容を他の人に伝える活動を授業で多く取り入れていく。 ・時代の特徴や時系列の理解についてまだ不十分な生徒が多いので、単元末に学習した時代を大観させたり、歴史的事象の時系列について時代背景を想起させたりして、生徒が歴史の時系列を理解できるような授業を展開していく。 ・誤答した問題を分析により、問題文の意味を理解できていないことがわかる。授業中に語句の意味を確認したり社会的事象についての文章をしっかりと読み込んだりする時間を確保していく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	38.8	49.7	47.6
	図形	42.9	49.2	47.7
	関数	32.7	38.0	36.8
	データの活用	53.3	49.6	48.5
観点	知識・技能	47.6	54.0	52.5
	思考・判断・表現	30.2	35.8	34.1



★指導の工夫と改善

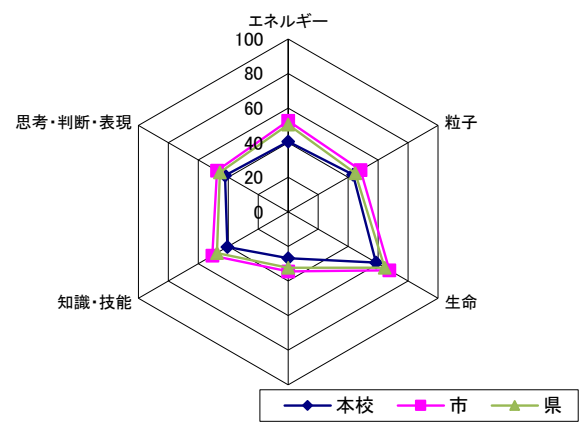
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市・県平均より低い。 ○「正負の数を利用して最低気温を求める問題」の正答率が、県平均と比べ7.7ポイント高い。 ●県平均と比較し、「与えられた不等式の意味を説明する問題」の正答率が-9.6ポイント、「式で用いた文字の意味を選ぶ問題」の正答率は-6ポイントであり、今後の課題である。	・中1の学習内容の「正負の数の四則計算」でつまづいている生徒もいる。これからの授業では、立式の意味や計算過程を丁寧に説明したり、板書させたりして理解に努めたい。また、補助教材や自主学習ノート等を活用し、計算の練習を継続的にやるよう支援していく。
図形	平均正答率は市・県平均より低い。 ○「平行移動後、重ねる図形を求める問題」の正答率が県平均と比べ0.9ポイント高い。 ●県平均と比較し、「角の二等分線の作図を利用して折り目を作図する問題」の正答率が-7.4ポイント、「立方体から三角錐を切り取った立体の体積を求める問題」の正答率が-8.4ポイントであり、今後の課題である。	・平面図形や空間図形で学習した基本的な知識や技能を活用することを苦手としている生徒がいる。これからの授業では、基本的な知識や技能を身に付けさせるだけでなく、それらを用いて他の問題に応用する力がつくよう支援していく。
関数	平均正答率は市・県平均より低い。 ○「与えられたグラフから三角形の面積の差を選択する問題」の正答率が県平均と比べ3.5ポイント高い。 ●県平均と比較し、「直線のグラフが途中で止まっている理由を変域を用いて説明する問題」の正答率が-8.2ポイント、「会話文から反比例の式を求める問題」の正答率が-11ポイントであり、今後の課題である。	・比例・反比例の関係を理解しているが、その関係性を読み取って式に表すことを苦手としている生徒がいる。これからの授業では、具体的な場面を設定して活用できる力を育てるようにしていく。また、自分の言葉で筋道を立てて記述する機会をつくり説明する力をつくよう支援していく。
データの活用	平均正答率は市・県平均より高い。 ○「度数分布表から、相対度数を求める問題」の正答率が県平均と比べ、それぞれ3.2ポイント、10.5ポイント高い。 ●県平均と比較し、「ヒストグラムから読み取った傾向を説明する問題」の正答率が-0.4ポイント低くであり、今後の課題である。	・データ活用で利用される累積度数や相対度数などの求め方を理解している。これからの授業では、身の回りの事例なども参考にしながら、記述したり説明したりする力がつくよう支援していく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	40.7	52.7	50.5
	粒子	43.2	48.3	44.9
	生命	58.6	67.6	64.4
	地球	26.8	34.4	32.3
観点	知識・技能	40.7	50.7	47.6
	思考・判断・表現	42.2	47.6	45.6



★指導の工夫と改善

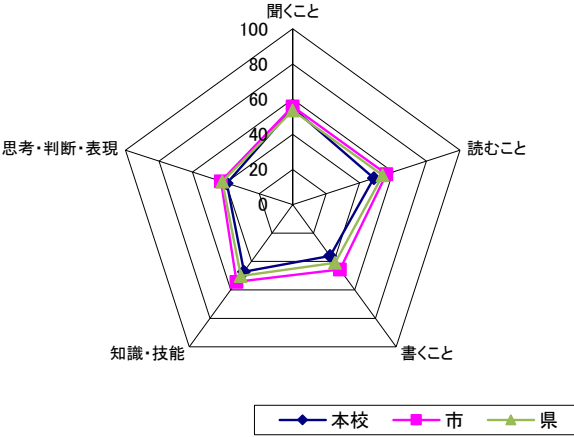
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	○音についての問題は、他のエネルギー領域の問題より正答率が高い。 ●平均正答率では、市よりも12ポイント、県よりも9.8ポイント低い。凸レンズのしくみで、虚像についての理解が不足している。	・エネルギー分野では、光・音・力など目に見えない現象が多いため、生徒の理解を助けるために、様々な現象を紹介し、経験させながら授業を展開していく。 ・「光の道すじ」を作図したり、「重力とばねののびの関係」をグラフに表したりなど、作図する力が弱い。作図する際に押さえるべきポイントを丁寧に指導し、作図練習の機会を数多く設ける。
粒子	○気体を発生させる方法については、県の平均より高い。あてはまる言葉を答え、実験の考察を完成する問いでは、市、県の平均を上回った。 ●平均正答率では、市よりも5.1ポイント、県よりも1.7ポイント低い。食塩の水溶液のモデルについては、特に理解が不足している。	・粒子分野では、実験を通して、物質の性質や変化について調べる方法を身につけさせていく。 ・原子・分子などの目に見えない粒子をモデルで可視化するなどして、イメージをもてるよう授業を展開していく。
生命	○被子植物の花のつくりを類推する問題は、市よりも1.9ポイント、県よりも5.6ポイント高い。 ●平均正答率では、市よりも9ポイント、県よりも5.8ポイント低い。節足動物から、昆虫類ではないものを選ぶ問題の正答率が低い。	・生命分野では、いろいろな生物の共通点や相違点を理解させるために、観察や実験をできるだけ多く取り入れていく。 ・映像資料なども多く取り入れ、理解を深める工夫をしていく。
地球	○3地点の柱状図の様子から、地層の傾斜を予測する問題は、市、県の平均より高い。地震に関しては、比較的よくできている。 ●4つの領域の中では最も正答率が低い。平均正答率は、市よりも7.6ポイント、県よりも5.5ポイント低い。火成岩の特徴やでき方についての理解が不足している。	・地球分野では、地球の活動について理解を深めさせるために、火山灰屋岩石を実際に観察し、映像資料も有効活用しながら、授業を展開していく。

宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	54.9	55.8	53.5
	読むこと	48.5	56.0	53.8
	書くこと	36.1	45.6	40.9
観点	知識・技能	47.2	54.3	50.2
	思考・判断・表現	39.4	42.9	42.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○情報を正確に聞き取り、その内容を表す英文を選ぶ問題については、市・県の平均を上回った。 ●聞き取った情報をもとに質問に答えたり、自分の考えを書く問題においては市・県の平均を下回った。	・授業の中で、リスニングの機会は設けているが、さらなる効果を期待し、今後も継続していく。 ・普段からクラスルームイングリッシュを多用し、リスニングの機会を可能な限り作っていく。 ・話し手の意図や気持ちを考えながら聞くよう、繰り返し指導を行う。
読むこと	○簡単な文で書かれたものの内容を正確に読み、文中の空欄に入る語を書く問題においては、市・県の平均を上回った。 ●読むことの問題においては全体的に平均を下回っており、今後の課題として力を入れていく必要がある。	・英文の要点(どこに何が書かれているか)を抑えながら英文を読み、必要な情報を読み取るために、文中のキーワードにマークしたり、問われていることが書かれている部分を探してみたりするscanningの練習を増やしていく。 ・普段の教科書内容理解の際には、英語でのQ&Aをより多く取り入れて、英語での答え方のパターンを身に付けさせる。
書くこと	○疑問詞を書き入れる問題は、市・県の平均を大きく上回っており、よく理解していることが分かる。また、内容を見ながら文中の穴埋めをするタイプの問題は比較的正答率が高い。 ●与えられた情報から、指示された内容の英文を書く問題の正答率が低い。特にまとまりのある文章を書く問題においては非常に低くなっている。	・一般動詞、助動詞などの基礎基本的な文法を用いて、ライティングを行うために、基本的な英文を、正しい英単語や英文法で書く練習を授業の中で継続して行っていく。 ・まとまりのある文章を書くために、読み手を想定して「何を知ってもらいたいのか、何が知りたそうか」というポイントを整理しながら、文章を書くことを意識させる。

宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強している。」と回答した生徒の割合は(79.2%)、市の平均と比べて11.6ポイント高く、また、「家で学校の授業の復習をしている。」と回答した生徒の割合は(80.2%)、市の平均と比べて9.8ポイント高い。これらの結果は、学校全体で一週間の家庭での学習の計画を立てる取組(マイスタディ)の成果であると考えられる。

今後も、AIDリルの活用するなどして一人一人の家庭学習の充実に努めていく。

○「学校のきまりを守っている。」と回答した生徒の割合は(96.9%)、「学校での役割や係の仕事に責任をもって取り組んでいる。」と回答した生徒の割合は(95.8%)と共に高く、学校全体で学級活動や生徒会活動を工夫している成果が表れている。

今後は、ウェブQなどを活用しながら、学級力の向上を目指していく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答した生徒の割合は(77.1%)、市の平均と比べて10.4ポイント高く、言語活動に苦手意識をもっている生徒が多い。

今後は、授業の中で生徒が自ら考える時間を確保し、書いたり伝え合ったりする言語活動の質の向上に努めていく。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的、対話的で深い学び」の視点からの授業改善	学力向上推進リーダーを中心に、年間を通して教師の授業改善を目的とした校内研修を実施する。	「授業の最後に、学習したことをふり返る活動をよく行っている。」(92.8%)
計画的な家庭学習の充実(マイスタディ)	学習計画表を作成し、家庭学習の習慣化を図る。	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」(79.2%)

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」と回答した生徒の割合は77.1%で、言語活動に苦手意識をもっている生徒が多い。	授業の中での言語活動の質の向上を図る。	授業の中で、根拠をもって考えたり、書いたり、伝え合ったりする活動を多く取り入れ、生徒が主役となる活動の時間を確保する。 授業で振り返り活動を行う時間を確保し、自分の考えを文章にまとめて書く習慣をつける。